

## 日本ことば療法学会

JLTA

Japanese Language Therapy Association

発行 一般社団法人発達支援協会 年2回発行(6月・12月)

〒452-0821 名古屋市西区上小田井2-98

TEL&amp;FAX: 052 (505) 5255

<http://www.seepa.jp/u/nihon-kotoba-ryohou-gakai>Eメール: [takada@aroma-nagoya.com](mailto:takada@aroma-nagoya.com) 発行人: 堀田喜久男

## 第1回 ことば療法学会開催

日時: 平成25年2月11日(火曜日)

時間: 10:00~15:30

会場: MAY THEATER (メイシアター)

大阪府吹田市 (同封パンフ参照)

当学会は障害児・者のことばの療法を調査・研究、発表、実践を通して療法の普及並びに増進を図り、障害児・者のことばの獲得、言葉によるコミュニケーション能力を高めることを目的とする。

**基調講演:** 風間千寿子 (チェンバロ奏者 日本の公開サロンコンサート創始者)

**研究発表:** 後藤 浩子: 予防医学心理学(楽)研究室 副代表 / 高橋亮太郎/堀田喜久男

**シンポジウム:** 堀田喜久男 日本ことば療法学会 委員長/ 風間千寿子(特別参加)

増田光音: ミュージックインストラクターズ養成学院 学院長

徳田和恵: 言語聴覚士専門学校 教員・高橋亮太郎: 株式会社キートン 代表取締役

**参加対象者:** 障害児の親御さん 障害児の療育者 特別支援学級 特別支援学校の担当者 障害児教育・療育を志す方 音楽療法の実践者 障害児・者施設の関係者 高齢者施設職員 音楽療法士 言語聴覚士 保育士 セラピスト 看護師 医療関係者 ことば療育に関心のある方 (大学生/音楽大学生/福祉/音楽専門学校生)

## ♥INDEX♥ 日本ことば療法学会開催

私の言葉療法	堀田喜久男
ことばの橋渡し	高橋亮太郎
異国でのことば療法	三谷 麻子
行橋(福岡県)支部だより	棚村 陽子
障害児通所支援事業の3要件	赤崎 倫夫
コラム・情報	穴戸 理恵

# 私の言葉療法



日本ことば療法学会  
委員長 堀田喜久男

私は長年、小・中学校（音楽）勤務の後 7 年間、小学校障害学級で「発語を促し学習能力を育てる音楽療法」の実践研究をした。殆どの児童は話せない・発語が不明瞭であったが、次第に言葉を獲得し、学習能力も育ってきた。この結果を毎年音楽療法の学会等で発表し、学会誌等にも発表した。

この間、障害児の授業研究誌などに 2 年間にわたり連載したり、2 冊の本にまとめたりした。また NHK 社会福祉賞や読売教育賞等を頂いた。読売教育賞の授賞式では受賞者を代表して答辞を述べた。日本語の抑揚を生かし、三三七拍子のリズムで歌わせたことが発語につながったと。そして、研究材料は足もとにあったとも。式後のパーティーの折、来賓の高円宮と話した。「先生の研究はコロンブスの卵でしたね」と私の思いを言い当てて頂いた。「抑揚を大切にした作曲家は山田耕筰や団伊玖磨ですね」とも。日本語の抑揚アクセントについてもよくご存知であった。

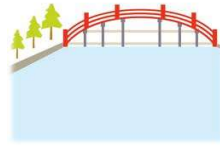
審査委員長の波多野完治氏が、受賞者の中には、退職後もこの研究等を生かして活躍されえている方も多いと。また「教育界の芥川賞でもある」とも。

退職後は発語音楽研究所を主宰し、10 数名の児童生徒の個別セッションをし、外部で数箇所のデイサービスのグループセッションを行なっている。中でも、3 歳前後の幼児の少人数のセッションではメインセラピストとコセラピストおよび援助スタッフで行う。これは画期的であり早期に言葉を獲得する幼児も少しずつ見られるようになって来た。この形態のグループセッションが増えることを期待している。

発音・発語が不自由な児童には、まず発音を促すのと併行して理解言語を増やす指導をする。次にマラカス化した玩具をリズム打ちしながらその玩具の名称を聞かせ、歌わせる。続いて、キラキラ星の歌で身体反応をしながら、各フレーズの 7 拍目で玩具の名称を聞かせたり、歌わせたりする。そして、1 音節語・2 音節語・3 音節語・・・と発語を促す。次に絵カードを使いながら多くの 2 語文の歌を聞かせ・歌わせて 2 語文の発語につなげる。絵カードと文字カードのマッチングをしながら文字を体得させ「言葉遊び歌」を進める。

児童の実態にもよるが、ほぼ 50~100 セッション（1セッション 50 分 月 3 回）で言葉が増えて数え歌や 50 玉計数機の学習が可能になる。その先は連想しりとり歌、つながりことば歌や文図構文（文法）などの知的学習に進む。

学習能力が育ち、中には普通学級へ進む児童もいる。セッションを長く続け、一般就労、ひいては、社会参加、社会自立につながった方もいる。要は積み重ねが大切である。



## ことばの橋渡し

横浜支部

支部長 高橋亮太郎

皆様にとって、2012年で最も印象に残ったのは何でしょうか。旅先でみた風景、児童の成長、ロンドン五輪、あるいは親や友人との別れ etc. 様々なものがある事でしょう。

このような問いかげができるのも、文字を介しての言語コミュニケーションのなせるワザです。むかし個人で欧州の田舎を旅したときに、英語が全く通じない仏語エリアがありました。仏語のできない私にとって、周囲の人たちの反応と行動を手がかりに行動するのは大変でした。

自分の言語というコミュニケーションツールが機能しないあのときの苦労を思い出すと、ことばの障がいを持つ子供たちが周囲と関わりを持つことがどれほど大変か、少しわかるような気がします。もちろんツールは言語だけではありませんが、それを解する人がいなければ、川や海に隔たれ孤立した状態になります。

私たちの仕事はそんな彼らに「ことば」という橋を周囲との間に架けているようなものではないでしょうか。工法はミソラ工法。橋を架けて（日常語の理解と発語）、拡張して（ボキャブラリー増）、往来ができる（やりとりの成立）ようになったら足場を外して（ミソラを使わない）、自立を促します。

発達障がい児の多くは検査を受けるたびに専門家から「評価」と「分析」をされていますが、それに応じて「言語理解」と「発語」を促す訓練が実施されるわけではありません。そのことは、目に見える成果を求めて堀田メソッドの門を叩きに来る親御さんの話からもうかがえます。

実は私の小2の長男も軽度発達障がいのため個別支援学級で過ごしており、算数が苦手です。彼に「7+4はなあに？」と訊いてもそっぽを向くのですが、節をつけて ♪ナナたすヨンは、な・あ・に？（♪ラソソソラソソ、ラ・ソ・ラ）と振ると楽しみのテイストを感じるのか、「えーとー…」と考え始めます。音楽によって取り組みへの心理的ハードルが下がり、注意機能の維持にも効果が感じられるように思います。

なんというか、音楽♪が加わることで脳の使われるエリアが広がり、機能の障害されていないポジションも稼動するのではないか、と考えています。

堀田メソッドの活動は、障がいを持つ子どもの将来性を広げる可能性を秘めた重要なものです。地域の灯火として共々にがんばっていきましょう。

行橋（福岡）支部  
便り

## 「音楽療法がくれたもの」



行橋（福岡）支部  
棚村 陽子

「りんご～、りんご～、りんごとりんご♪」

今日も、歌に合わせて、「ももちゃん」は楽しそうにりんごのマラカスを振っています。

音楽が大好きな6歳の次女「ももちゃん」と、堀田メソッドとの出会いは、3年前、「ももちゃん」が3歳の頃でした。私の親友でもある長女のピアノの先生に、「ももちゃんも音楽が大好きなので、何か習わせてみたいんだけど」と相談したことが始まりでした。先生は、発達障害をもつ「ももちゃん」のために、いろんな雑誌や情報を調べてくれました。そこで名古屋の堀田先生と音楽療法を知り、さっそく電話で問い合わせ、堀田先生の著書やマラカスを取り寄せ、セッションを試みてくれました。

堀田メソッドを知れば知るほど、週1回のセッションではもったいない、家庭でも是非取り入れたいと思い、先生と一緒に全国セミナーに参加し、通信教育を受講しました。ピアノ経験ゼロの私は、長女のお下がりのバイエルを使つてのピアノレッスンからのスタートで、どうなることかと心配していましたが、周りの方々の協力もあり、なんとか無事終了することができました。

今では、週1回のセッションを楽しむとともに、家でもピアノに合わせて踊ったり、トランポリンで跳ねたりと、家族で堀田メソッドを楽しんでいます。お風呂でも「あらう、あらう、あたまをあらう♪」といった感じです。そうしているうちに、いろんな言葉を理解できるようになったり、最初はできなかった課題がいつのまにかできるようになったりしていることに気がつきました。

言葉はまだまだゆっくりな「ももちゃん」ですが、大好きな音楽を楽しみながら、少しずつ言葉や知識を増やしてゆき、いつかはいろんな歌と一緒に歌えるようになったらいいなと思っています。そして、「ももちゃん」をきっかけに福岡に広がってきたこの発語音楽療法を必要とする多くのお友達に伝えていけたらいいなと思っています。



マラカスで発語音楽療法



# 異国でのことばの療法

日本ことば療法学会

委員 三谷 麻子

音楽療法を専門学校と大学院で学び、日本音楽療法学会認定音楽療法士として、発達障がいをもつお子さんや、乳幼児親子向けの音楽セッションを行ってきました。東京で7年ほど、主に発達障がい児の個別セッションを中心に活動してきましたが、今年マレーシアのクアラルンプールに引っ越してからは、こちらの療育センターのような施設で音楽療法のクラスをしています。毎回毎日が、とにかく勉強です。日本と違う点、例えば使用する曲や歌詞、生徒たちの国籍や人種が様々だという事、生徒や他の先生と英語でコミュニケーションする事等、数多くありますが、そんな中でも、音楽に求められる事というのは日本にいた頃と変わらないと強く感じます。堀田先生の発語を促すプログラムは、こちらクアラルンプールでのセッションでも取り入れさせていただいています。発声をなかなかコントロールできなかった生徒がタイミングよく発声したり、また発声がほとんどない生徒が口を開けようとしたりする場面がみられています。



KUALA LUMPUR

音楽は、発語や身体運動を助ける、子どもの活動意欲を助ける、場面理解を助ける、言語のみでは伝わりにくかった指示伝達やコミュニケーションを伝えやすくする、情緒に働きかけながら発達を促す等、様々な働きがあります。音楽のこのよう働きは素晴らしいものですが、実際に子どもたちの前でそれを生かすのは、言葉で言うほど容易ではありません。常に学びながら、自分の音楽療法の引き出しを広げ続けていけたらと思います。

## 推薦絵本



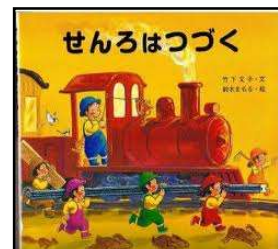
発語の音楽療法としても最適な本です。



あっちゃんあがつくたべもの歌  
リーブル社 発行



ぞうくんのあめふりさんぽ  
福音館書店 発行



せんろはつづく  
金の星社 発行

# 障害児通所支援事業の3要件

企業組合カトレア・サービス

代表 赤崎倫夫

前回書きました障害児通所支援（児童発達支援事業と放課後等デイサービス）を始めるための条件と手順をお伝えします。何はさておき「何を」「誰に」支援するのか、例えば「発語」を「知的障害児に」というように具体的に描いて下さい。ここで対象者が「障害のある子ども」でなければ基本的にこの通所支援事業になりません。「何を」の部分は前回の「目的」に合致するものであれば、できるだけ特色のある得意分野であることが大切です。ビジョンを描き、プランを立てれば、それにともなって①時間②場所③人のTP03要件が決まってきます。もちろん公的資金の裏付けを得るには法定要件を踏まえることです。

①時間 については、何歳の子どもの対象にするかで考え方が違います。未就学児を対象とするのは「児童発達支援事業所」といい、保護者としては朝から夕方までを期待しますが、長ければ長いほど人件費等のコストがかかる覚悟が要ります。報酬単価は、「サービス提供時間（開所時間）」が4時間未満は切り下げ、8時間超では割増しになります。学齢児を対象とするのは「放課後等デイサービス」といい、平日（学校等がある日）と休日（土日祝日、夏休み等通学のない日）とで考え方をえねばなりません。なぜなら、平日は学校等の終わったあとからなので時間にかかわらず同一単価ですが、休日は4時間を境に単価が変わるからです。また「営業時間」と「サービス提供時間」、「実利用時間」の区別も意識しましょう。

②場所 については、対象の年齢や障害によって考えます。求められる部屋は「活動室」「静養室」「相談室」「事務室」で、それぞれ条件がありますが広さについては「人数と目的にふさわしい広さ」であれば法的な数値基準はありません（国レベルはないが都道府県で定めることもできる）。「活動室」は「目的」に応じて「機能訓練室」「生活適応訓練室」「創作活動室」等々を設けます。昼食等食事の提供を行う場合には、別に「調理室」「食堂」などが求められます。また、各目的に応じた「・・・室」が要りますが、壁で区分けされていなくとも、個人情報保護など合理的に対処できれば認められます。あらかじめ具体的な図面を元に都道府県の担当者に確認するとよいでしょう。建物の構造については、耐震強度は当然の事として、身体に障害のある子どもの通所を考慮に入れねばなりません。バリアフリー化された建物でなければ対象が狭まります。

また、地理的な場所については、特別支援学校や地域の療育センター等とどう関わるか、送迎サービスをするかしないかによります。親の立場からすると送り迎えの手間はないほうが助かります。送迎は自宅と事業所の間のみであったものが、今年度から学校と事業所の間も認められるようになり、実際の需要に応えられるようにもなりました。ただし、未就学児の場合保育の観点から保護者に送迎をして頂く考えも多くあります。また給付額は片道単価540円ですが、同乗職員・ドライバーの人件費や車両償却費・燃料費・管理費など、経費はそれ以上にかかります。幼稚園のように大勢の送迎ではないので、飽くまで付加サービスという捉え方になります。

③人 については、キーワードが「児童発達支援管理責任者」です。各事業所に1名以上置かねばならないのは「……管理責任者」と「管理者」で、常勤専従が求められます。「管理者」は特別

な資格はいりませんが「児童発達支援管理責任者」には厳しい条件があるため、この人材の確保が事業所開設の最大の隘路となります。有資格者は「……管理責任者講習修了者」ですが実際にこの講習自体今年度から始まったものですし、回数もあまり多く開かれていません。そんなわけで詳細は都道府県担当課に確認いただくとして、過去の「サービス管理責任者講習修了者」や「受講資格があり直近の講習を受講予定の者」も認められます。しかしその受講資格に障害児直接処遇実務経験5年以上という条件があるためハードルが高いのです。この経験5年以上の人を確保することが第一歩です。ほかに「保育士」「(児童)指導員」が少なくとも2名、できれば3名必要です。ここでも①時間と同じように「勤務体制」と「実勤務」との違いがあります。

このTP03要件のめどを立てて、都道府県(政令市)の担当窓口(障害児支援課、子ども福祉課など名称はまちまちです)に早めに相談することです。行政担当者と親しくなればいろいろな情報など後々役立ちますから、恐れずに訪問することです。

**子どもの発語教育  
音楽活用セミナー**

行橋で保護者ら学ぶ

言葉の発達が遅れている子どもへの発語教育に音楽を活用するセミナーが、行橋市中央の市民会館で開か

発達支援協会(名古屋)が全国6会場で開催しており、堀田喜久男理事長(80)が講師となつて理論や実践法を教えた。日本語の特徴を踏まえ、堀田理事長は言葉の中にメロディーがあり、音楽に乗せて教えるの



が効果的」と強調。キーボードを弾きながら、わらべ歌の節に合わせて言葉の出し方を教える方法などを紹介した。

福智町の児童発達支援センター「きらり」に勤める保育士、吉岡知恵さん(23)は「これまでに経験したことのない教え方なので、試してみたい」と話していた。

**8月26日 福岡(行橋)セミナー**

読売新聞 より

### ～発語音楽療法全国セミナー～

7月から開始した全国発語音楽療法セミナーが無事終了致しました。全国6箇所「名古屋・福岡(行橋)・横浜・奈良・大阪・舞鶴」にて開催したセミナーも今年で3年目となりました。本年度は1日間の基礎を中心に中身の濃い内容で行いました。今年の参加者は特別支援学校・学級の担当者の方が多く、全国で110名程の受講生が熱心に勉強をされていました。

25年度も全国発語音楽療法を下記10箇所にて計画しております。言葉の療育に悩んでいる親御さんや、指導者の方に発語音楽療法を知って頂き、日々実践することで、子どもさんの発語に繋がってほしいと思っています。

#### 25年度全国発語音楽療法セミナー

- |              |        |
|--------------|--------|
| 愛知：2月～6月(4回) | 北海道：8月 |
| 静岡：7月        | 東京：10月 |
| 横浜：9月        | 大阪：12月 |
| 兵庫県：11月      | 舞鶴：12月 |

## コラム②

学会委員 穴戸 理恵

スーパーで買い物をしていると販売促進・宣伝の為、「マネキン」と呼ばれる方が、ソーセージやパンの試食や牛乳の試飲などを行っていることがある。この方たちにはいろいろなタイプがいる。包み込むような笑顔で話しかけ、「これ美味しいよ！」と薦めるおばちゃんタイプや、おしとやかなお姉さんタイプ、元気なおじさんタイプ、技術カリスマタイプなど。私は時々、商品よりも、その手法と売れ行きを観察することがある。(余談ですが、スーパーの苦情メモが並んで貼ってある掲示板も時々見て、なるほどと思ったり、笑えることを発見してしまったりしている。)人を惹き付ける話術により沢山売ることができる方もいれば、声は大きくて一生懸命に呼びかけているのに、顔を見ず、呼び止めるのが下手で、声だけで周りの人たちが気づかずに素通りされるような方もいる。「試食品をいかがですか？」と言いながらも、その場から動かないので、だれも相手にしない…とか。

また、電車で出掛ける時に車内アナウンスが無表情に抑揚もなく流れ、「優先席付近では携帯の電源をお切りください…」と、本当にそう願いアナウンスをしているのか疑問を感じてしまったり、モゴモゴ話すので乗換え案内が聞き取れないことがあったりする。しかし時々、専門学校講義に行く時のバスの運転手さんで心の込もった明るく親切なアナウンスをする方にあたると感動する。そんなときは学生さん(介護福祉士の卵さん)に「今日の運転手さん」の話をする。私も様々な場面で気をつけたいなあと思う。高齢者施設では聴力、体力の衰えから聞き取れないことばがあると、面倒くさくなったり、諦めて心を閉ざしてしまったりするであろう。子どもの施設や学校他でも、「音楽療法・ことば療法を行う側」のことばの意識の重要性をよく考える。(あたり前なことでもあるが…)プロ意識を持ちたいな。

25年度

9月(予定)

第1回 日本ことば療法学会主催セミナー 1泊2日

開催場所:長野県(松本市) 内容(発語音楽療法 / 感覚統合)



今年も残すところ数日となりました。皆様にとりまして今年はどうのような年でしたか?日本経済は先行が見えない状態が続いていますが、巷では忘年会・クリスマス・年末の旅行計画と何かと気ぜわしい時期ですが、心の慌ただしさを沈め、心との対話時間を持つてみてはいかがでしょうか?

今年の出来事や実行したことを思い浮かべながら、来年の活動計画を考え、目標をたてる時間は貴重なものとなります。目標を立て、実行しようと意識を持つと、見るもの、聞くこと、読むもの、出会える人などが今までとはまったく違ってきます。目標を持たなければ羅針盤を持たない船のように行き先が分からず、行動や生き方に迷うこととなります。また、目標を心の中だけで留めるのではなく、家族や友人に『ことば』として公言したり、文字として視覚に訴える方法もいいと思います。年末にこそ自分と向き合う時間を持ちながら新しい年を迎えて下さい。皆様にとり、巳年がよい年になるように願っております。来年も宜しくお願い申し上げます。(事務局 高田)

日本ことば療法学会ホームページ

日本ことば療法学会 →検索

発行部数:500部